IIMAの目　公益財団法人　国際通貨研究所

2015 年 7 月 6 日

ブラジルの負のスパイラル
イラン産原油輸出再開のインパクト

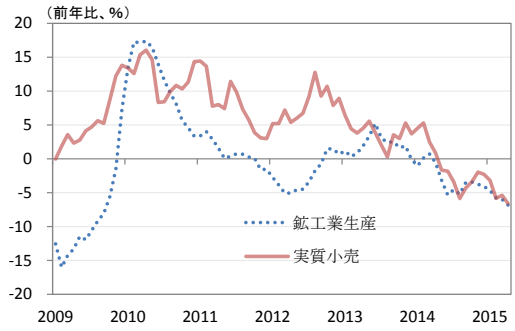
公益財団法人　国際通貨研究所
経済調査部　上席研究員　森川　央

ブラジルの負のスパイラル

ブラジル景気の悪化が止まらない。4 月の実質小売売上高は前年比 8.5%減、鉱工業生産も同 7.6%減である。3 ヵ月移動平均でも、それぞれ－6.6%、－6.8%となっている。政府は 2015 年のプライマリーバランス（基礎的収支）を GDP 比+1.1%とすることを目標に歳出削減を計画しているが、景気低迷による歳入不足で、更に歳出削減を迫られることになりそうだ。しかし、ルセフ政権への支持率は既に低迷しており、6 月 17-18 日に実施された世論調査によると支持率は 10%である（Datafolha 調べ）。これは汚職問題で弾劾されたコロール政権への支持率（1992 年 9 月：9%）に次ぐ低支持率である。プライマリーバランスの黒字回復は、格付維持のために必須。しかし、財政緊縮は景気悪化を深刻化させ、更に緊縮が必要になる負のスパイラルを招いている。

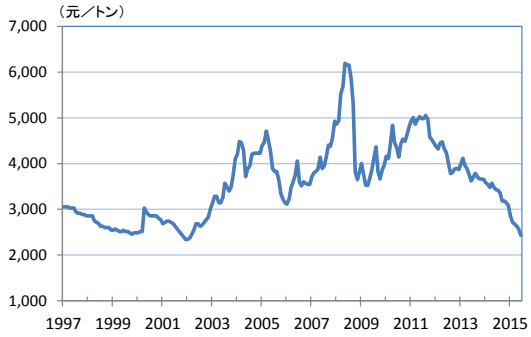
海外からの追い風も期待できそうにない。主力輸出品である鉄鉱石の価格は当分回復しそうにない。中国は建設業の調整が長引きそうで鋼材価格は 2002 年以来の安値に下落している。

ブラジルの生産、小売



（注）いずれも3ヵ月移動平均
（資料）Thomson Reuteres

中国の鋼材価格



（資料）Thomson Reuters

イラン原油輸出再開のインパクト

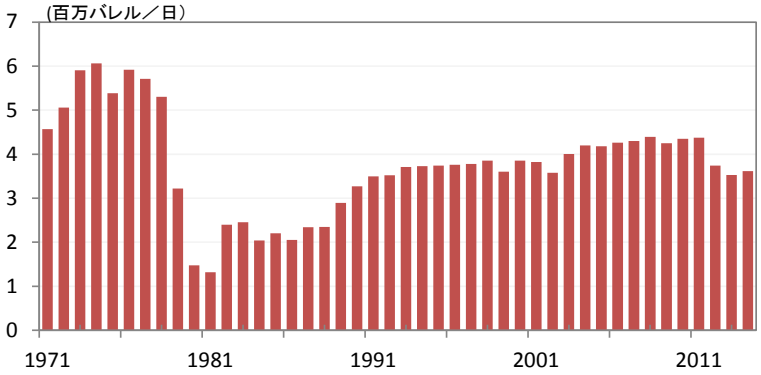
イランは核開発問題で制裁を受けているが、欧米 6 か国との協議は難航しつつも大詰

めを迎えており近々制裁解除の期待が高まっている。解除後、イランは即座に原油輸出を再開する模様で、既に大型タンカーに原油を積み込んでいる。その量はスーパータンカー20 隻前後、4,000 万バレルと言われている（6/16 付ロイター記事）。

かつてはサウジアラビアに次ぐ産油国で、ピーク時は 600 万バレル／日の生産量を誇ったイラン。現在は、300 万バレル／日程度の生産で輸出は 100 万バレルに留まっているが、潜在的には 200 万バレル／日以上の追加供給力がある。

サウジは自国のシェア維持のため既に増産気味。5 月の生産量は 1,025 万バレル／日（IEA）で、これは 1981 年 8 月以来の生産量である。産油国のシェア争いが激化しそうだ。

イランの原油生産



（資料）Thomson Reuters

また、封鎖されていたイランの対外資産は約 1,200 億ドルにのぼる。これらの多くがイラン国内に還流し、投資や消費に回されるだろう。制裁解除後のイラン経済にはブームが訪れることになろう。（7 月 2 日記）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。